

### 5-3 ウエペケレ「スルクマツ チクペニカムイ イカオピュー キ」解説

語り手：貝澤とうるしの

聞き手：解説：萱野茂

萱野：これは、**surku tonomat cikupeni kamuy i=kaopiwki**〔トリカブトの女神とエンジュの神が私を助ける〕という **uepeker**〔散文説話〕だな。

貝澤：うん。

萱野：私はある村に住んでおる男、なに不自由なく、猟も上手だし、まったく不自由なく私の妻とともに生活をしておりました。けれども一番そればかりがまあ、足りないといえれば足りない、不自由だといえれば不自由なのは、子供がないことである。

だからなんとかして子供が欲しくって、考えておってもどうすることも出来ずにおったら、妻が「私には子供がなさそうだから、ぜひ、家の旦那よ妾をもってくれないか」と、そんなふうに言われ言われしておったんだけど、なんか妾を持つということは、いわゆる本妻に申し訳ないような気がして、それもしないでおった。でも、あんまりにも言われるし私自身も子供が欲しいので、近所からいい娘を一人、妾として迎えて暮らしておるうちに、男の子が産まれた。その男の子も非常に良くて、どんどん大きくなっていく。

そうしておる時に、ある日、山の狩り小屋へ、いわゆる **kucacise**〔狩小屋〕と出ていますが、その **kucacise** へ狩りに出かけて行った。そしたら私の **kucacise** に人がおるはずではないのに、行く前にちゃんと火が燃えて、煙が出ているのが見えながら入っていった。

そしたら、家で置いてきたはずの本妻と妾、二人がちゃんと座って火を焚いて、「家の主人はそれ、来るのに疲れて帰るだろうと思って先に来ておったよ。さあさあ。」と言いながら、でも小声で言うことは、「危ない事があるので、先回りしてきていたんです。さあさあ、そこの家の隅の方にある **cisekorkamuy**〔家の守り神〕という神さまのもとへ行って、あんたはだまって見ていなさい。」

そういうふうに言われたので、自分のものは整理して、ちゃんとその *cisekorkamuy* という家の東隅にある神さまの所へ行って、隠れるようにして座っておった。

そうすると、そこへ間もなく、あっ、その *kucacise* という家まで来るちょっと前に、その *kucacise* の、狩り小屋のすぐそばの所で *ineurepet'uspe* [四つ爪の熊] というふうに表示されておりますが、昔のどう猛な熊は足の親指を、ま人間風に言えば親指を人差し指へ重ねて歩いた足跡が爪四本だけ、そのこう、見えるというのがこれアイヌで非常にそのどう猛な熊として見分けるんですが、その *ineurepet'uspe* いわゆる四つ爪の熊がすぐ狩り小屋の近くのぼさ原へ入ったのを見たので、これは恐ろしいなとも思いながら来た。

そうしたら今言ったようなその、本妻と妾がおって「さあさあ隠れなさい」と言われたので、すぐに隠れた。まもなく私とまったく同じような私たち恰好をした男が入ってきて、そうしたらその本妻と妾の言うのには、「やあやあ、家の主人はお疲れでしょう。さあさあ、さあさあ」という調子で、二人がかりでまかない [身につけたもの] をほどいたりいろいろ待遇して、「さあ、お疲れでしょう。食べなさい。」という訳で物を食べさせた。

そしてまあ、食べさせられるままに物を食べて、終わって、食べ終わって間もなく、なんかその熊は変に、熊って、ま、その時はまだ人間なんですけれども、その人間は姿勢ぱっと(?) こうフラフラしたような恰好をしとる。それから家からすぐに出て、家の裏のその *nusasan* [祭壇] と言いますが、その *nusasan* の所へ行ったら。そして、ぱったり倒れた音がした。

そうしておるところへ、まあ、出てしまったので安心して出てみると、出ると、そのいわゆる家の隅の方から、その、本当ではないけれども、私の妻らしき恰好した人たちがそばへ出ると、「よく、ま、これでもう終わりましたよ」と。「実は私たち人間ではありませんが、私は *cikupenikamuy* と言って、エンジュの樹です」と。「あなたのこの祭壇のすぐ傍の所から生えておったんだけれども、熊が来てあなたを襲おうとしたのを見たので……」 *surku tonomat* と言って、毒ですね、これは。アイヌ語での *surku* は、

貝澤： *surku tonomat* はブシ [トリカブト]。

萱野： うん、ブシ [トリカブト] だな。「ブシの神さまを頼んで、そして二人で

あなたを助けるべくここへ来て待っており、そして熊があなたの顔、形そっくりにして来たのを待ち構えて、毒を食わせて殺したんですよ。」と、そういうふうに言いながら帰って行ったと。

ありがたくて、ありがたくて、厚くお礼を言いながら次の朝になり、そして、なるほど、昼間になってみると、外の方のその祭壇には、あるのは **cikupeni** [エンジュ] だとか、それから **surku** というブシ [トリカブト] があつたと。それらにも **inaw** [木幣] をあげたり、そして、本家へ帰ったと。

だけども、山へ行って危なく死にそうになったのに、エンジュの樹の神さまと、ブシ [トリカブト] の毒、毒草ですね、ブシの神さまが私を助けてくれたおかげで、そのあと **inaw** あるたびにいろいろとそのお礼をするものだから、なお私は非常に幸せに、熊も沢山獲れて幸せに生活しております。

そして、さらに私の妾には続いて女の子も産まれたので、子供も不足なく幸せに暮らしておりました。と、一人の男が語りました。